

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年7月10日

予報期間：7月12日～8月11日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東・西日本は、期間の前半は気温がかなり高い状態が続く見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

北日本太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

東・西日本日本海側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

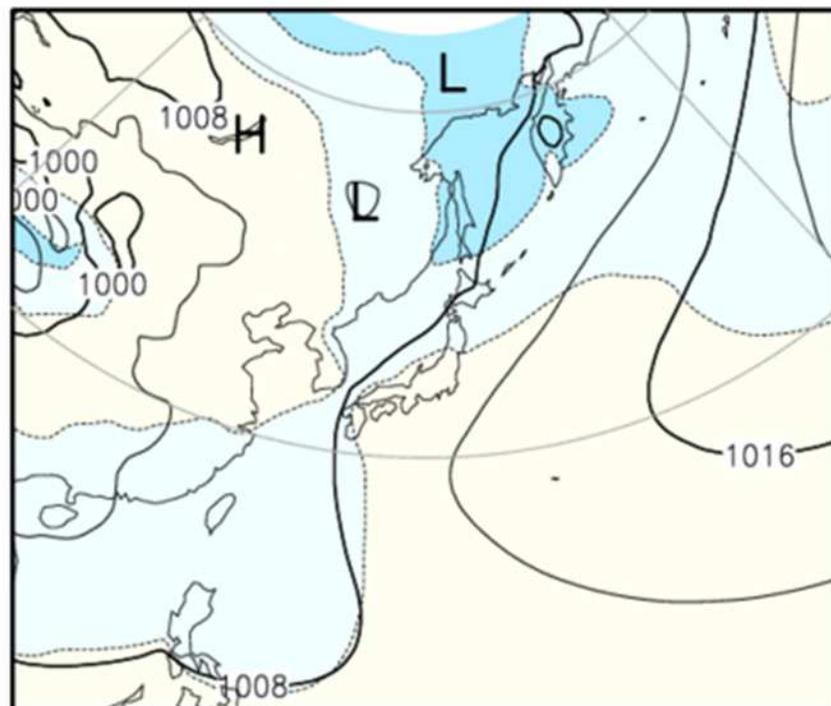
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:10:80	30:30:40	30:30:40	
	太平洋側		30:40:30	20:40:40	
東日本	日本海側	10:20:70	40:30:30	20:40:40	
	太平洋側		30:30:40	30:40:30	
西日本	日本海側	10:20:70	40:40:20	20:40:40	
	太平洋側		30:40:30	30:40:30	
沖縄・奄美		20:40:40	20:30:50	50:30:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:10:80	10:40:50
東日本	10:20:70	10:20:70	10:30:60
西日本	10:10:80	10:30:60	10:30:60
沖縄・奄美	20:40:40	20:40:40	30:30:40

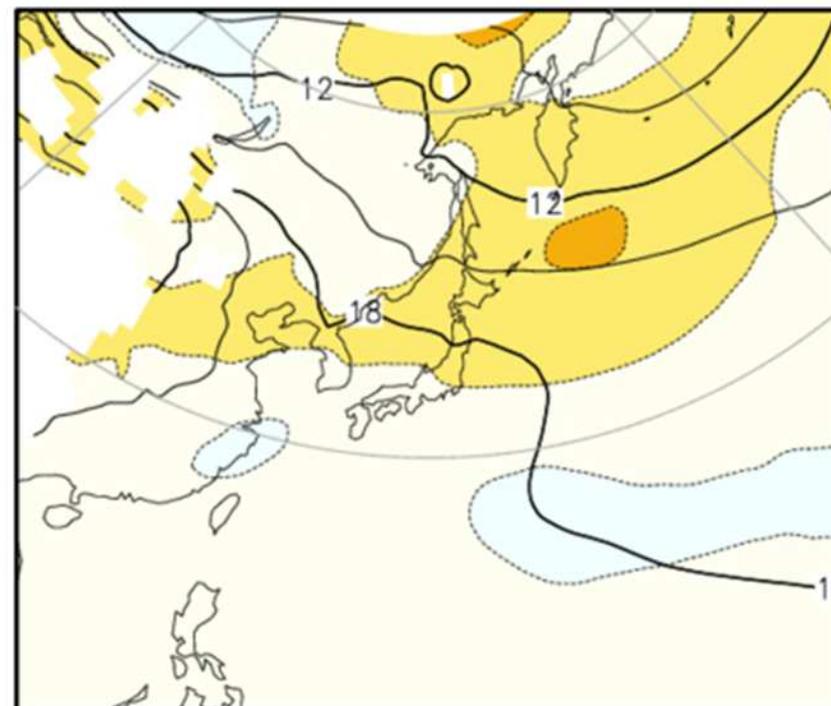
全般予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本では高く、沖縄・奄美では平年並か高いでしょう。北・東・西日本では、期間の前半は気温がかなり高い状態が続く見込みです。
- 太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は、西日本日本海側では平年並か少ないでしょう。向こう1か月の日照時間は、北日本太平洋側と東・西日本日本海側では平年並か多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

海面気圧(1か月)

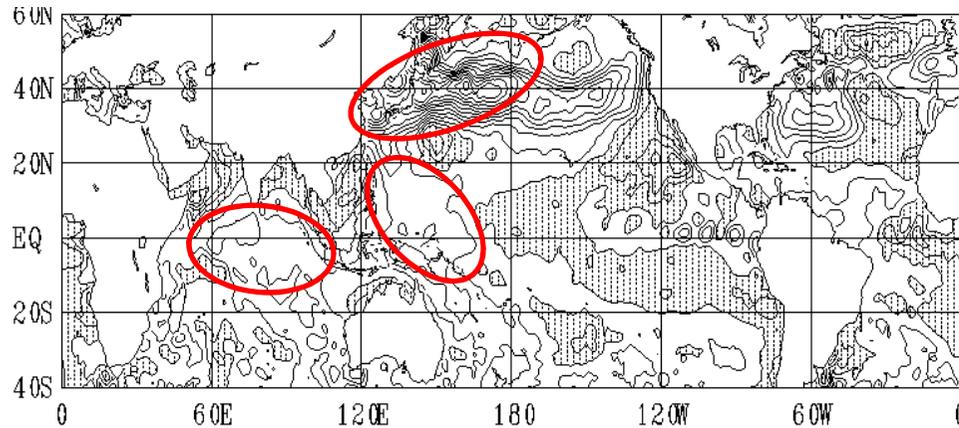


上空約1500mの気温(1か月)



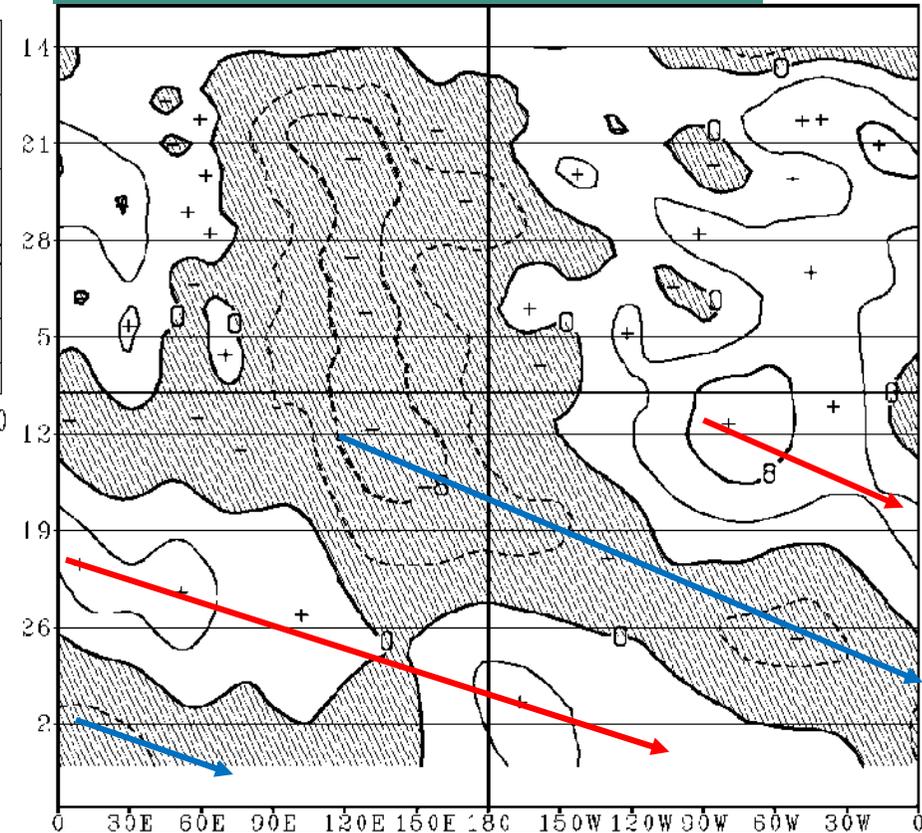
1か月平均の海面気圧(左図)は、本州付近は平年より高く、東・西日本中心に太平洋高気圧に覆われやすい時期があるでしょう。一方、東シナ海付近では気圧が平年より低く予測され、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に、平年より高いと予測されています。

SST偏差



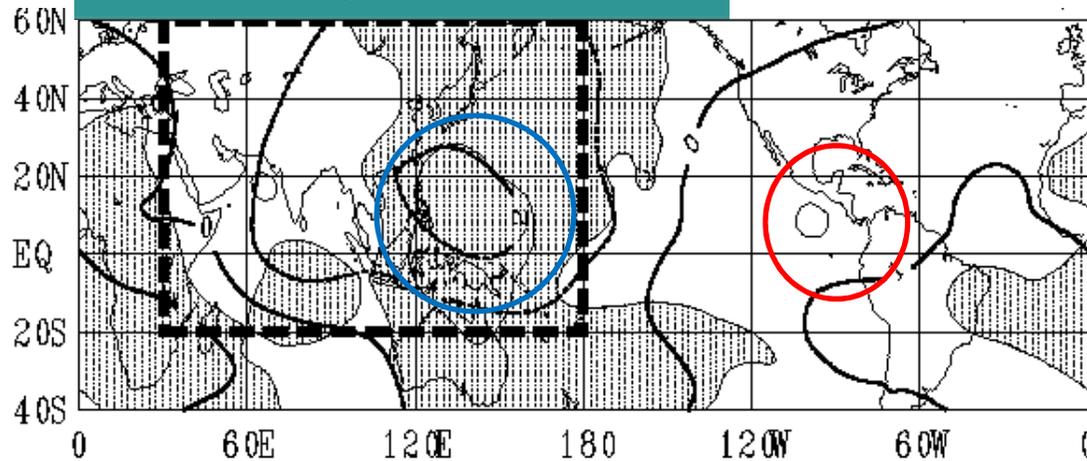
熱帯域では、インド洋、太平洋西部で正偏差。また、日本近海から北太平洋で広く正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



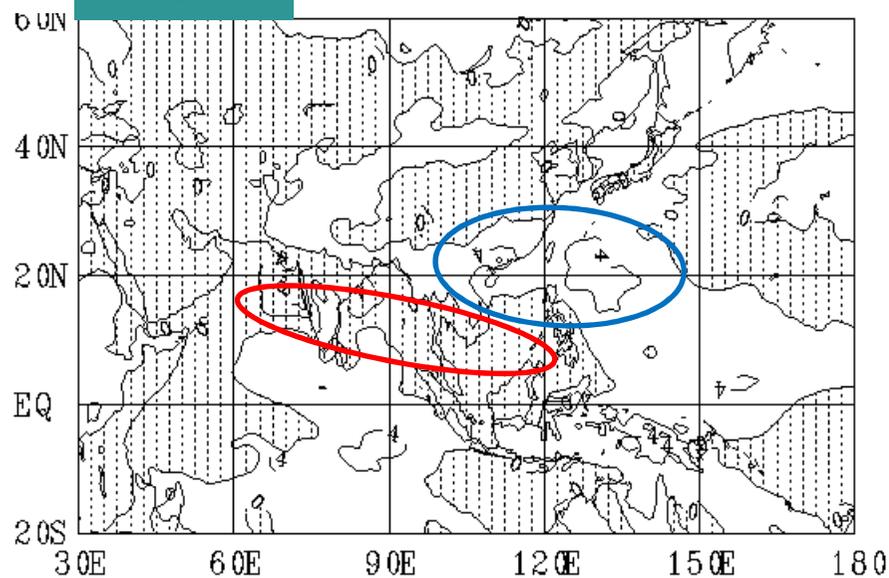
4週目にかけて、発散偏差域(対流活発域)が、インドネシア付近からアフリカ付近へ東進。一方、収束偏差域(対流不活発域)は、南米付近から太平洋へ東進。

200hPa速度ポテンシャル



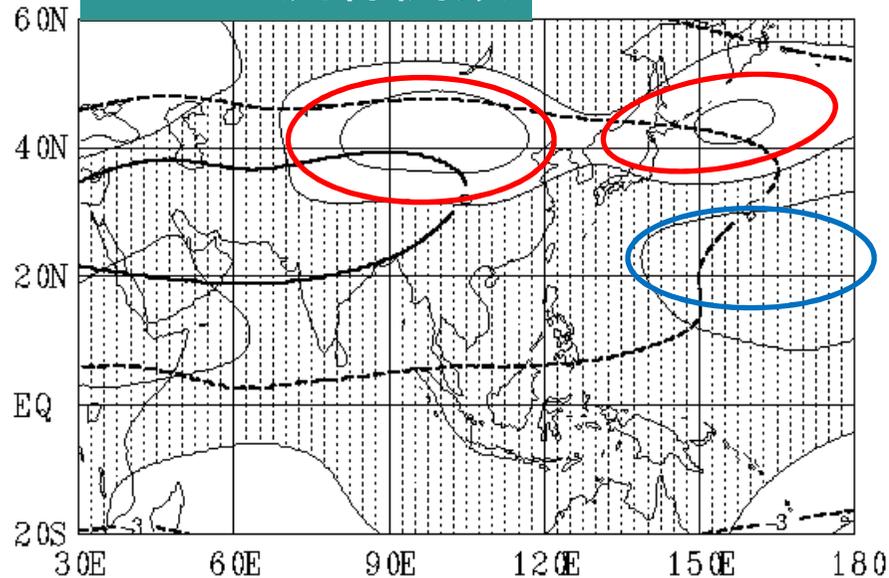
太平洋熱帯域の西部で上層発散偏差。一方、中米付近で上層収束偏差。

降水量



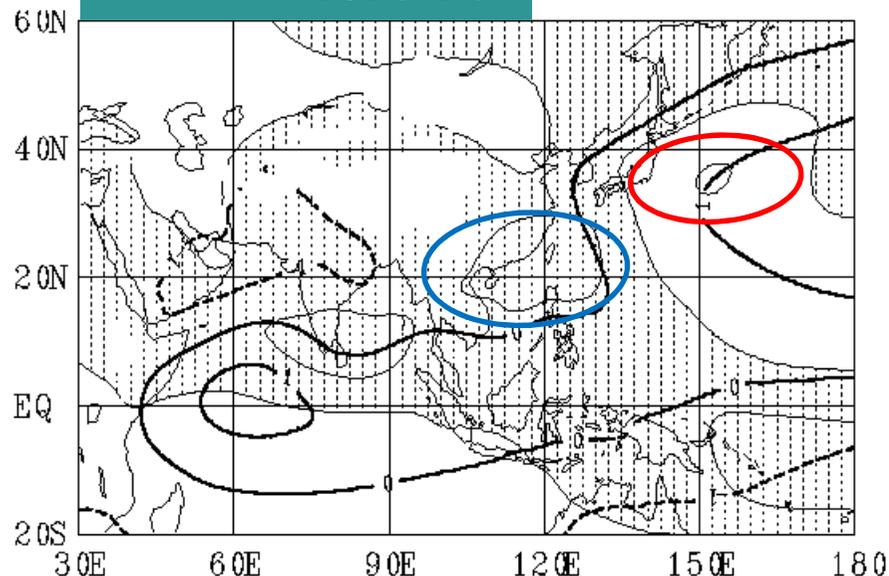
華南付近からフィリピンの東にかけて多雨偏差、インド付近から南シナ海にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



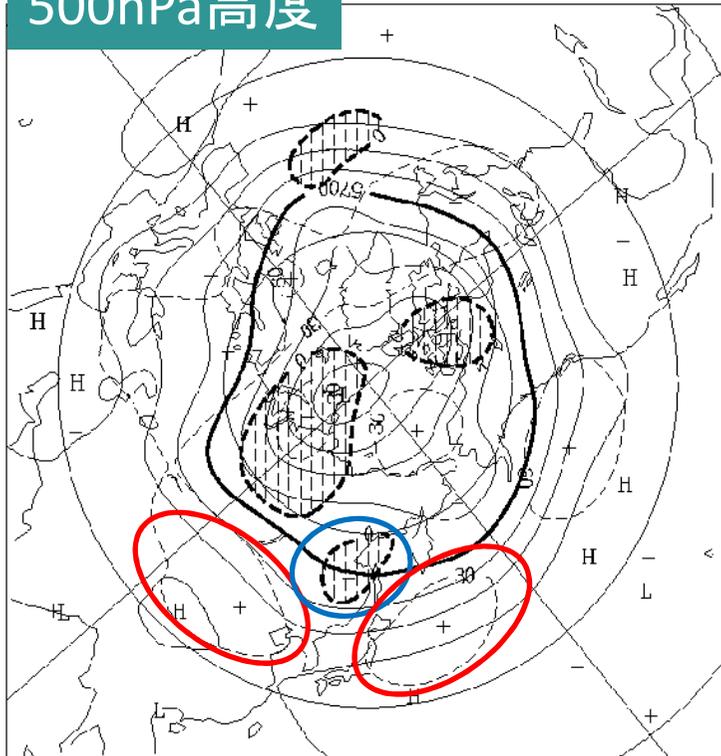
亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播や熱帯の対流活動の影響で、千島の東を中心に高気圧性循環偏差。日本のはるか南東海上は低気圧性循環偏差。
亜熱帯ジェット気流はアジアから日本付近で北偏。

850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、華南から日本の南にかけて低気圧性循環偏差。日本の東を中心に本州付近は高気圧性循環偏差で、順圧的な構造。

500hPa高度

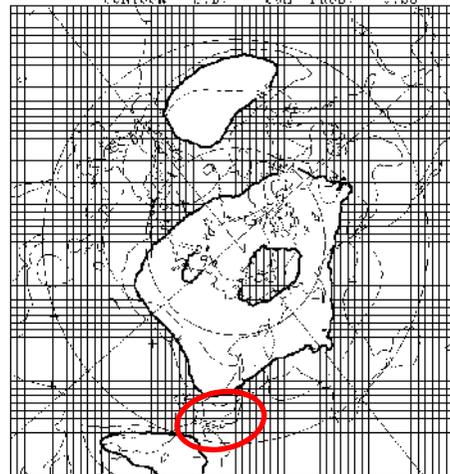
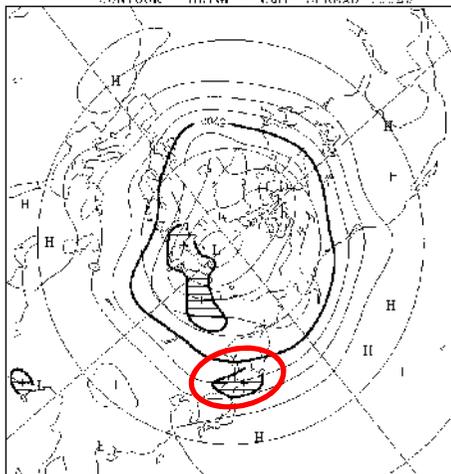


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 0.25

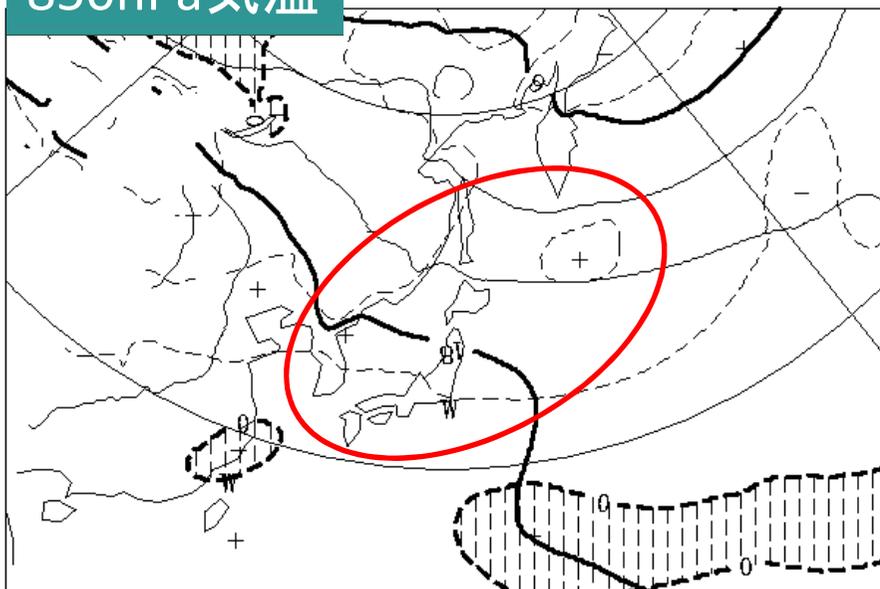
CONTOUR S.D.: 30% PROB: 0.25



北半球中緯度帯のほぼ全域で正偏差。亜熱帯ジェット気流沿いと寒帯前線ジェット気流沿いの波東伝播の影響で、日本の東は正偏差が大きい。

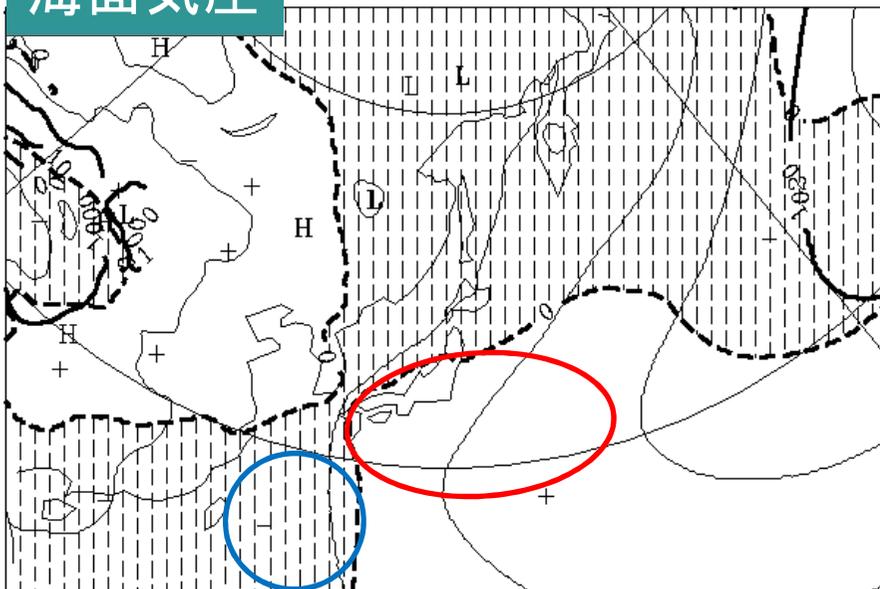
本州付近は正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。北海道付近ではスプレッドが大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播の予測の不確実性を示唆。

850hPa気温



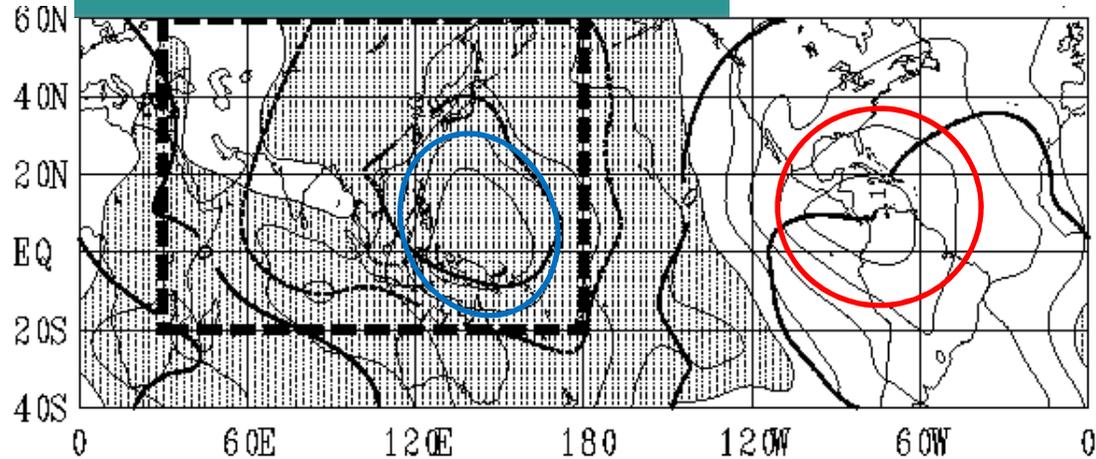
日本付近は北日本を中心に全国的に正偏差。

海面気圧



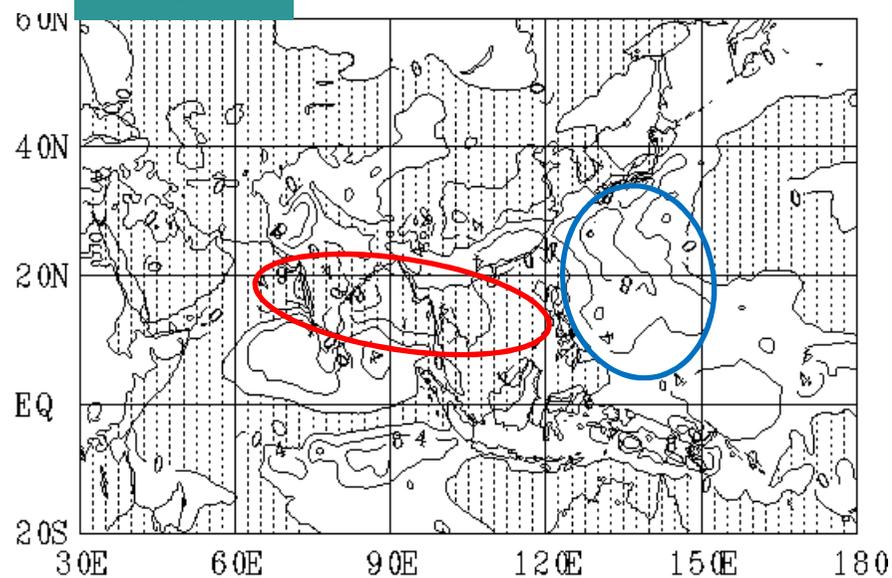
本州付近は正偏差で、太平洋高気圧の張り出しが強く、東・西日本中心に太平洋高気圧に覆われやすい時期がある。一方、東シナ海付近では負偏差で、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



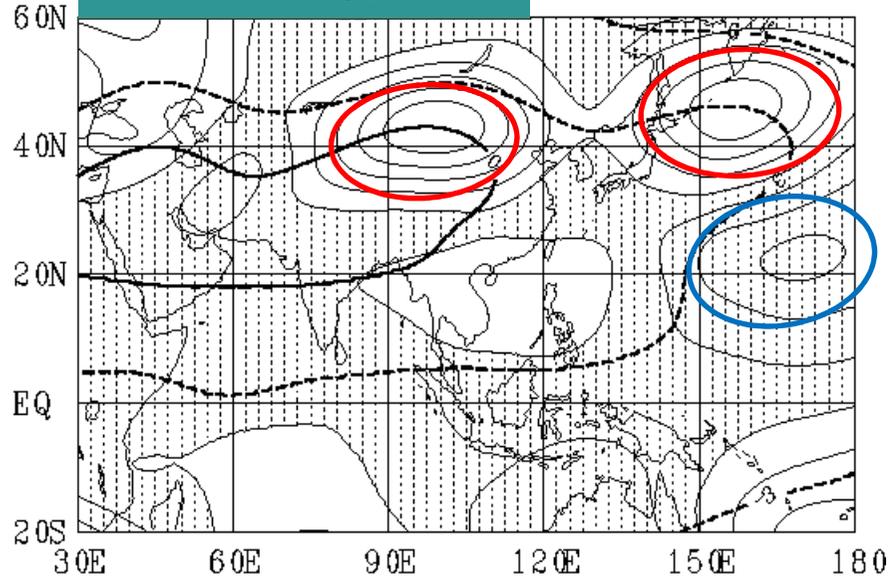
フィリピンの東からインドネシア付近で上層発散偏差、南米付近で上層収束偏差。

降水量



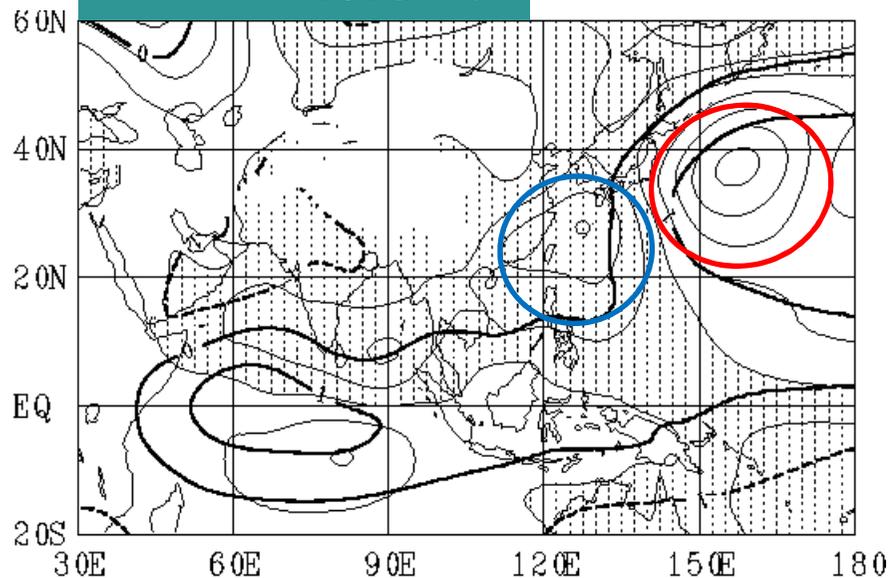
フィリピンの東から日本の南で多雨偏差。インド付近から南シナ海にかけては少雨偏差。

200hPa流線関数



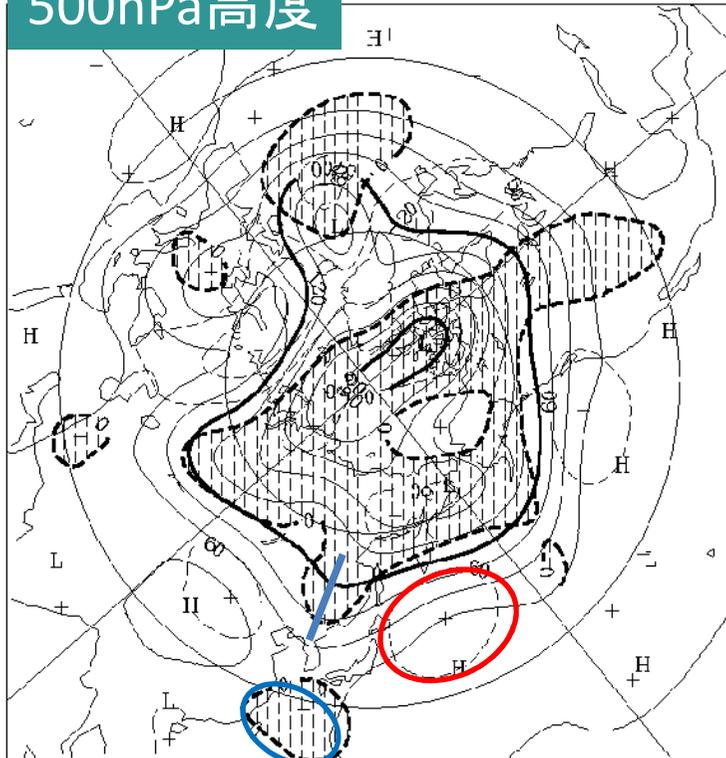
亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波東伝播の影響で、千島の東を中心に高気圧性循環偏差。その南の日本のはるか南東海上で低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



対流活動に対応して、東シナ海を中心に低気圧性循環偏差。一方、日本の東では高気圧性循環偏差で、順圧的な構造。

500hPa高度

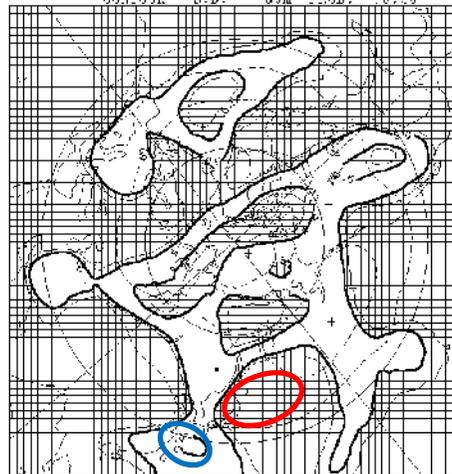
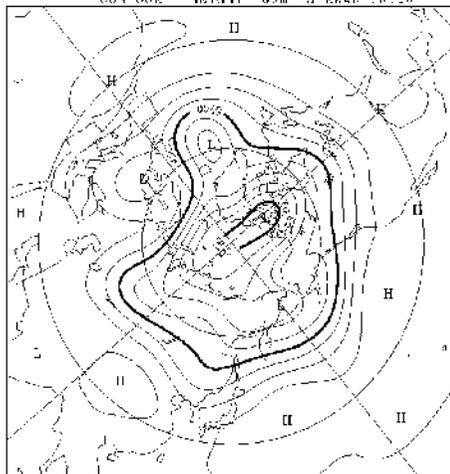


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

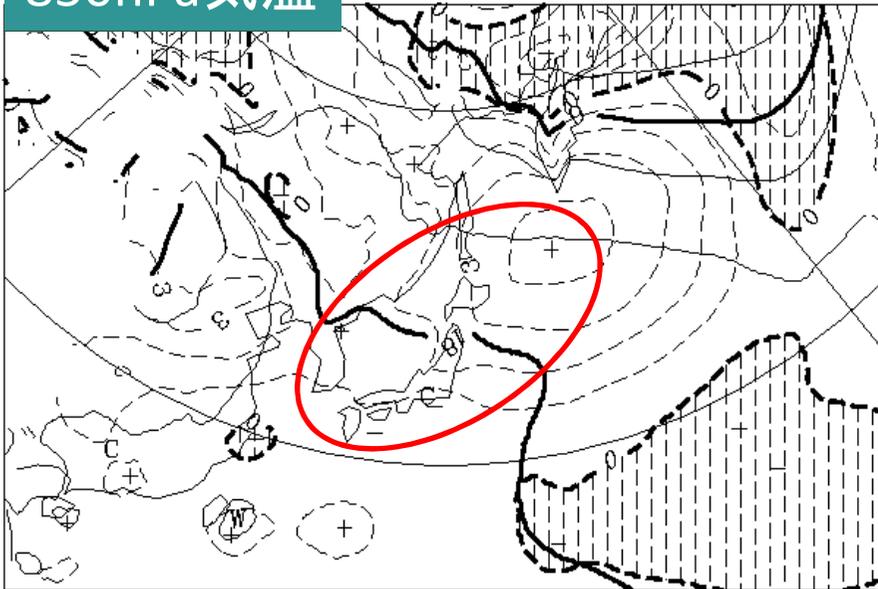
CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



北半球極域で負偏差、中緯度帯は正偏差の所が多い。また、中国東北区付近は負偏差でトラフとなっている。一方、日本の東は正偏差が大きく、日本付近は西谷傾向。東シナ海付近は負偏差。

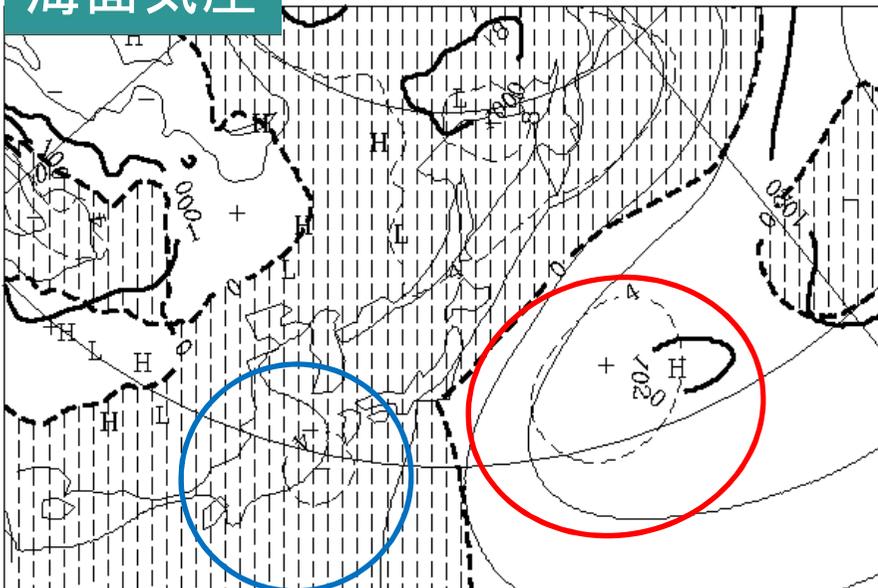
北・東日本は高偏差確率75%以上の領域に覆われている。一方、沖縄・奄美付近には負偏差確率50%以上の領域が見られる。

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に正偏差。

海面気圧



日本の東は正偏差で太平洋高気圧が強い一方、東シナ海付近を中心に負偏差となっており、東・西日本太平洋側を中心に、高気圧の縁を回る湿った空気が流れ込みやすい。沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

- 北日本と東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- 東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年と比べ晴れの日が少ないでしょう。

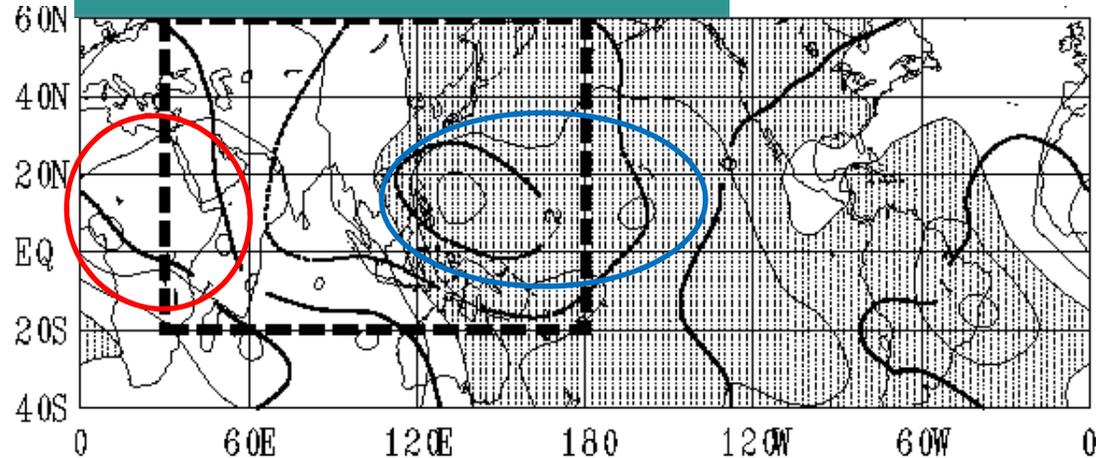
<気温>

暖かい空気が流れ込みやすいため、北・東・西日本はかなりの高温。沖縄・奄美は高温傾向。

<天候>

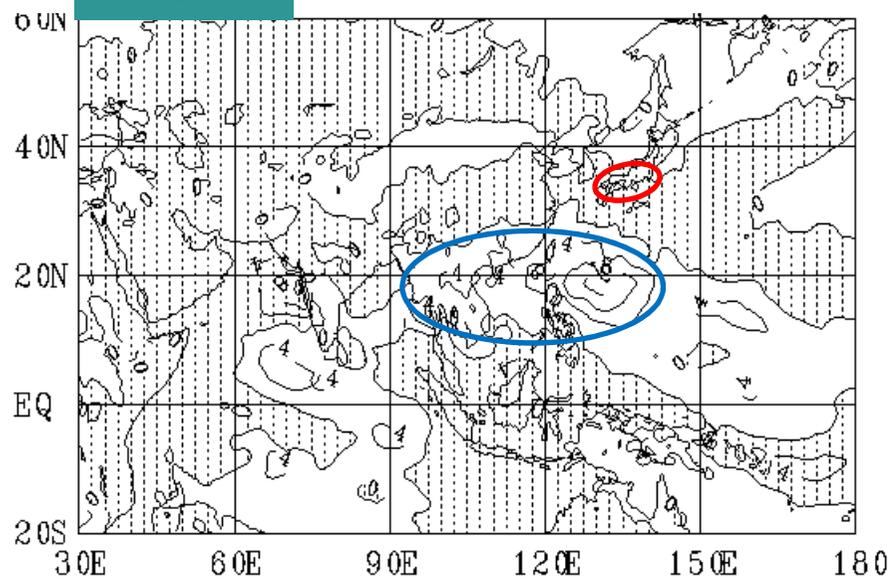
東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



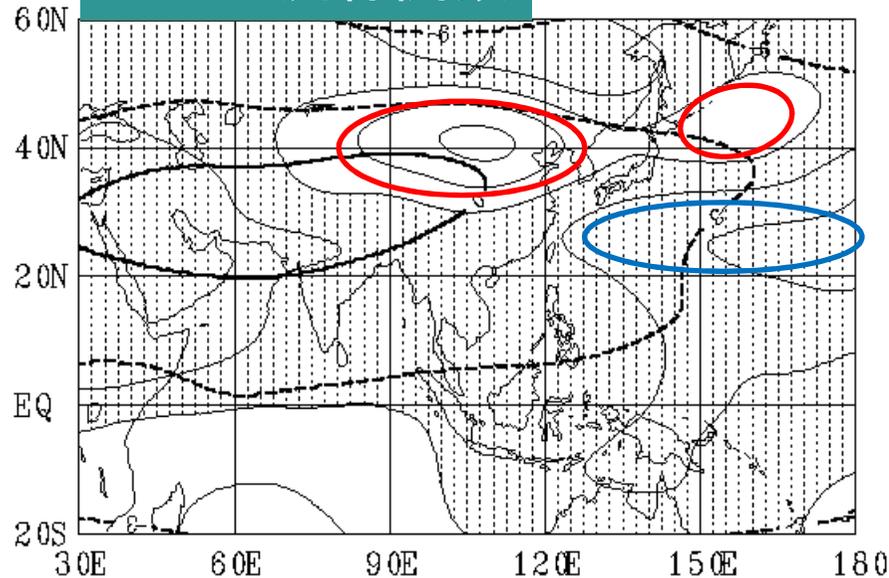
フィリピンの東から太平洋熱帯域の中部で上層発散偏差、
アフリカ付近で上層収束偏差。

降水量



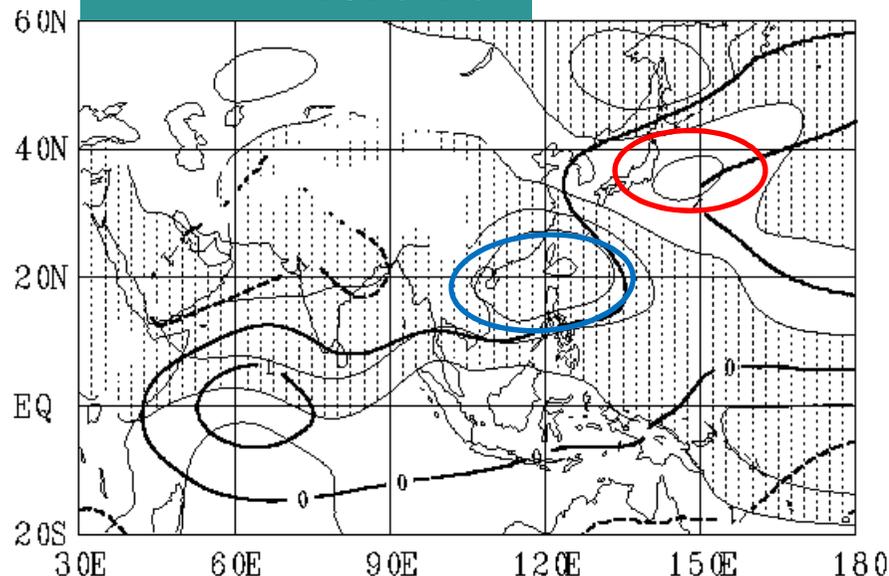
インドシナ半島からフィリピンの
東にかけて多雨偏差。西日本
中心に少雨偏差。

200hPa流線関数



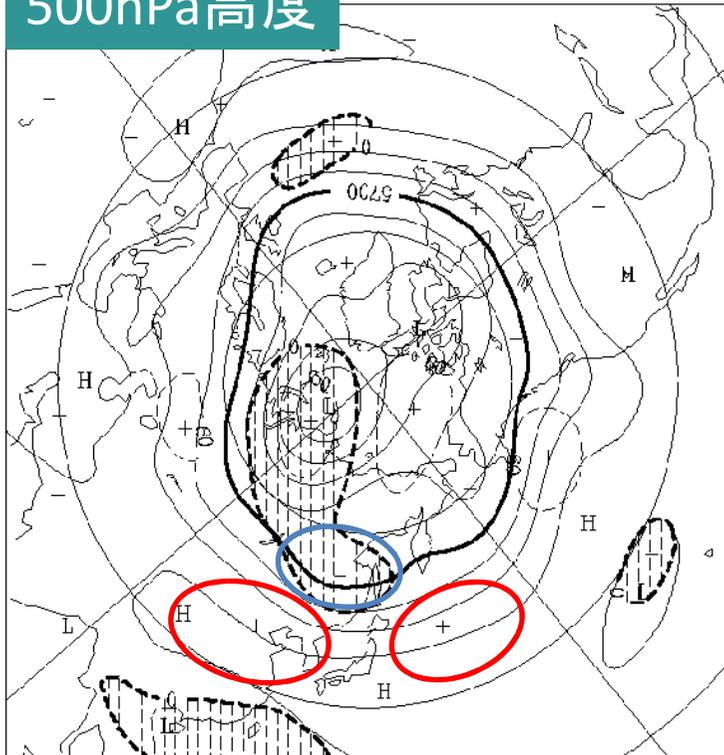
華北付近と千島の東を中心に高気圧性循環偏差、日本の南は低気圧性循環偏差。対応して、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本の東海上にかけて北偏して流れる。

850hPa流線関数



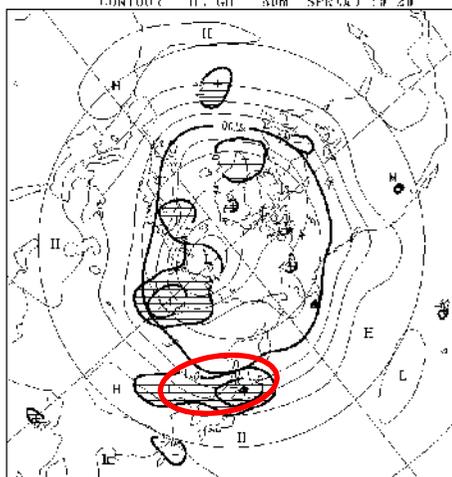
1週目に比べ、熱帯の対流活動活発域が西進し、対応して低気圧性循環偏差と高気圧性循環偏差も西進し、後者の中心は日本の東から本州付近にのびる。典型的な太平洋-日本(PJ)パターンとなり、本州付近は太平洋高気圧に覆われる。

500hPa高度

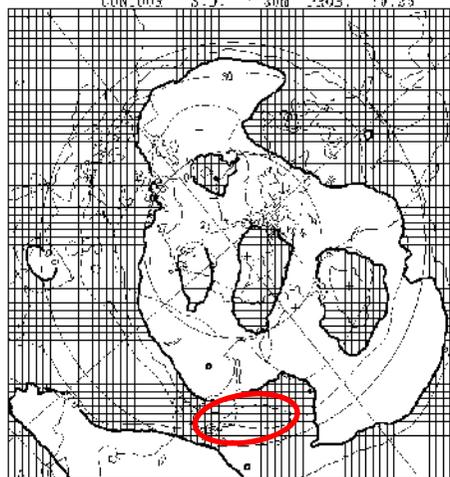


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. AKOMA.Y AND S.D.



CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD : 0.20

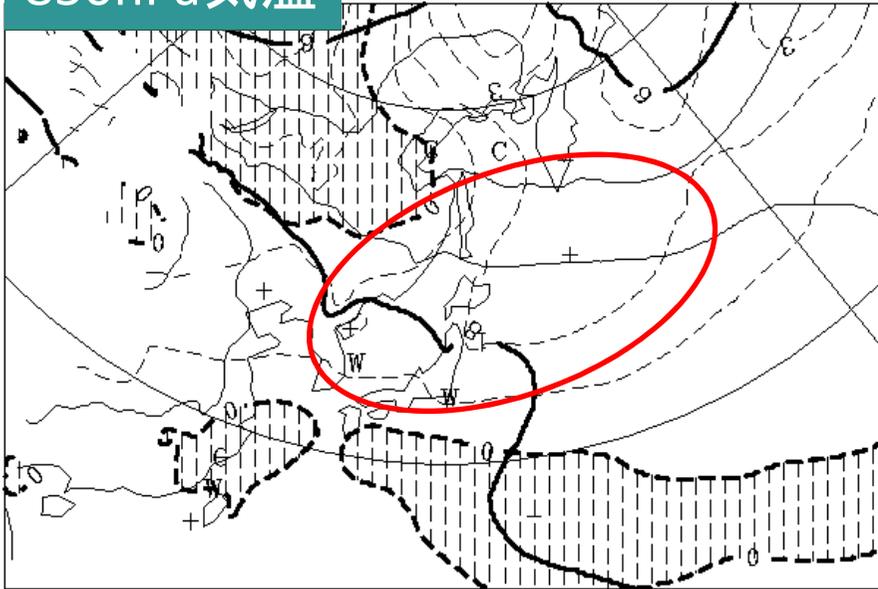


CONTOUR S.D. : 3000 2200 10.20

北半球中緯度帯のほぼ全域で正偏差で、華北付近と日本の東で偏差が大きい。一方、シベリア付近は負偏差。

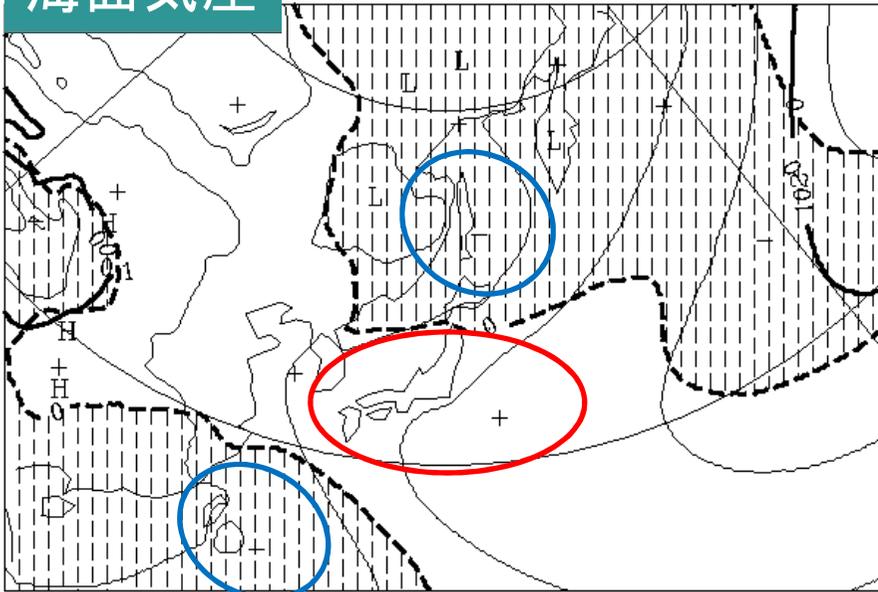
本州付近は正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。北日本付近ではスプレッドが大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播の予測の不確実性を示唆。

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に正偏差の所が多い。

海面気圧



サハリン付近は負偏差で、北日本日本海側中心に低気圧や前線の影響を受ける時期がある。一方、本州付近では正偏差で、東・西日本中心に太平洋高気圧に覆われやすい。また、沖縄付近は負偏差で、沖縄・奄美は湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

- 北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- 北日本太平洋側と東日本日本海側では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- 東日本太平洋側と西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本はかなりの高温。沖縄・奄美は高温傾向。

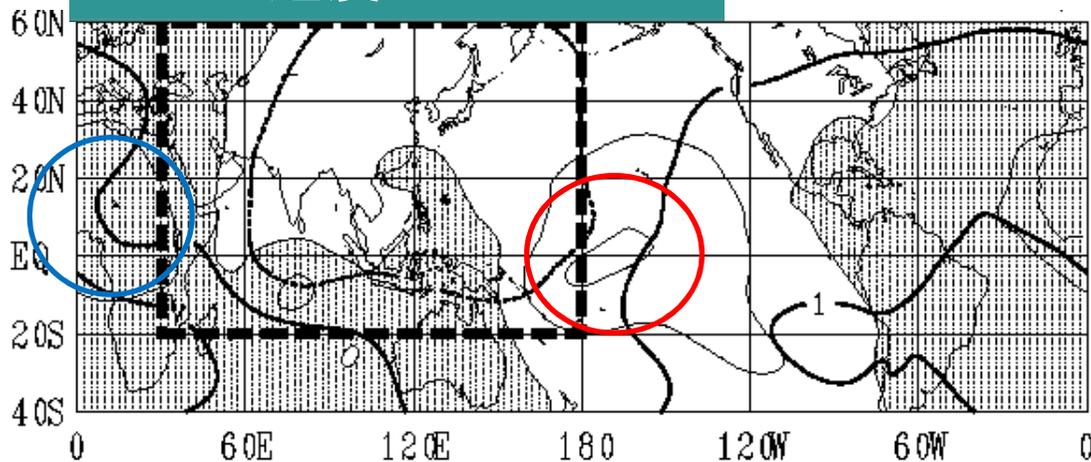
<天候>

北日本日本海側中心に低気圧や前線の影響を受ける時期もある事を考慮し、北日本日本海側ではやや多照だが多雨傾向、北日本太平洋側では多照傾向だが並雨。

東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすい。

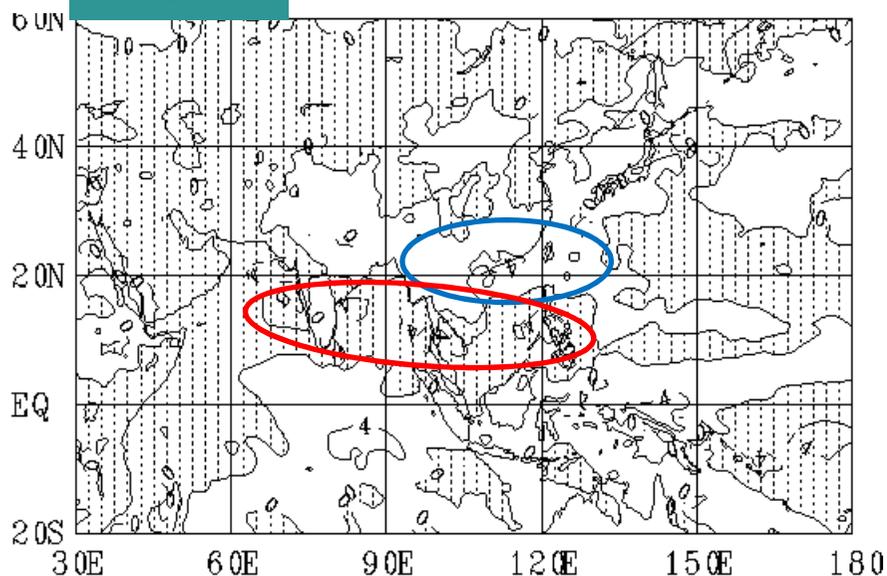
沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



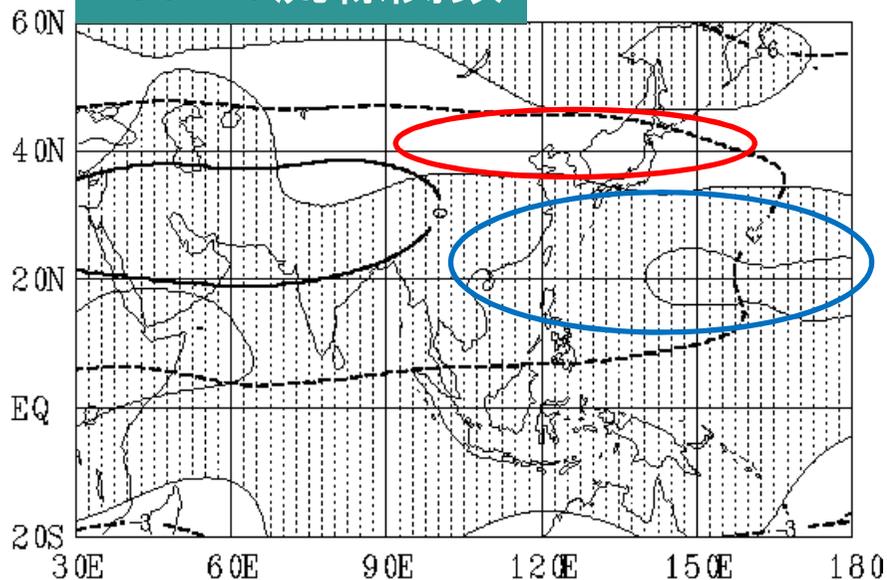
アフリカ付近で上層発散偏差、
太平洋熱帯域の中部で上層
収束偏差。

降水量



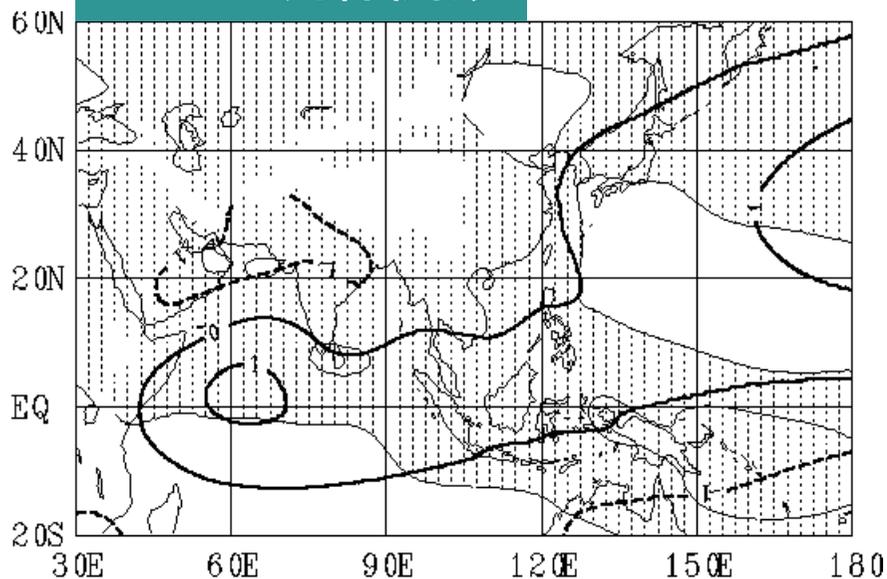
華南から沖縄の南で多雨偏差。
アラビア海からフィリピン付近
で少雨偏差。ただし、熱帯季節
内変動の予測に不確実性があ
り、日本付近はその影響を受
ける可能性がある。

200hPa流線関数



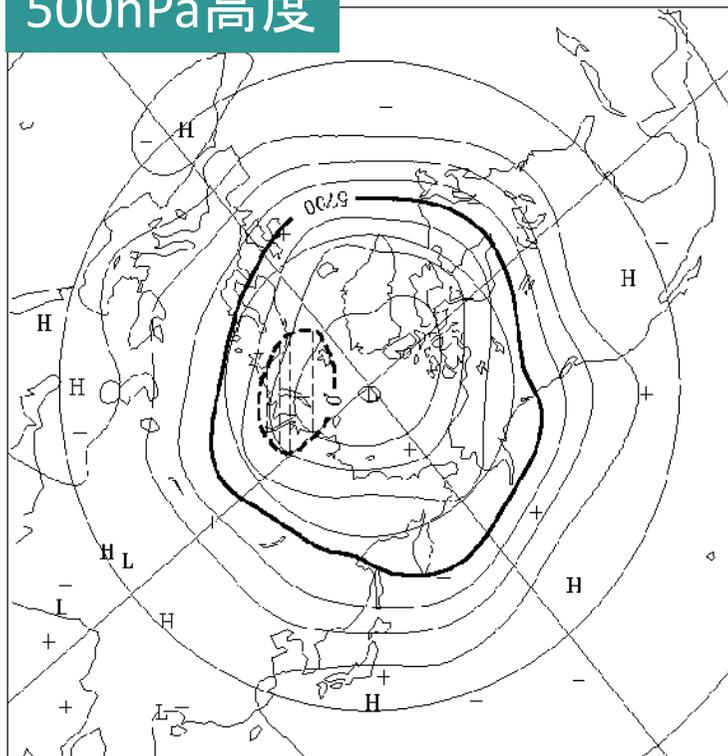
日本付近は、本州を境に、北側は帯状の高気圧性循環偏差、南側は帯状の低気圧性循環偏差。対応して、亜熱帯ジェット気流もアジアから日本の東海上にかけて北偏して流れる傾向が続く。

850hPa流線関数



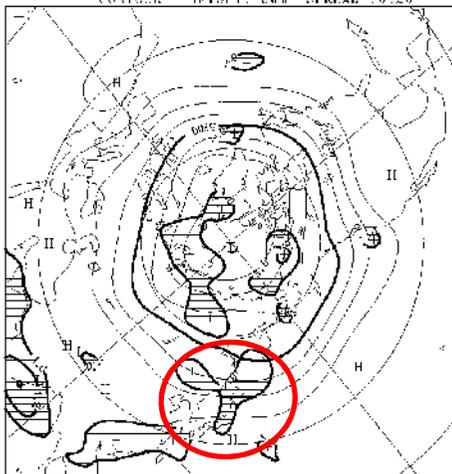
日本付近の偏差は小さい。

500hPa高度



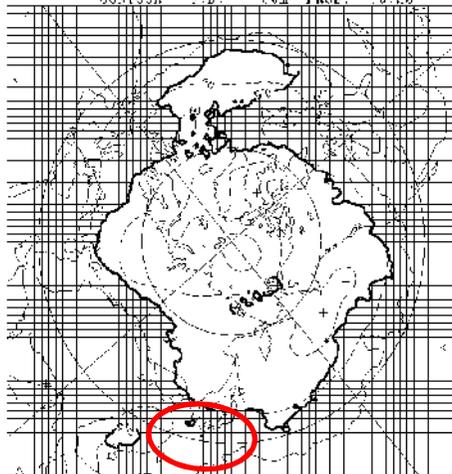
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

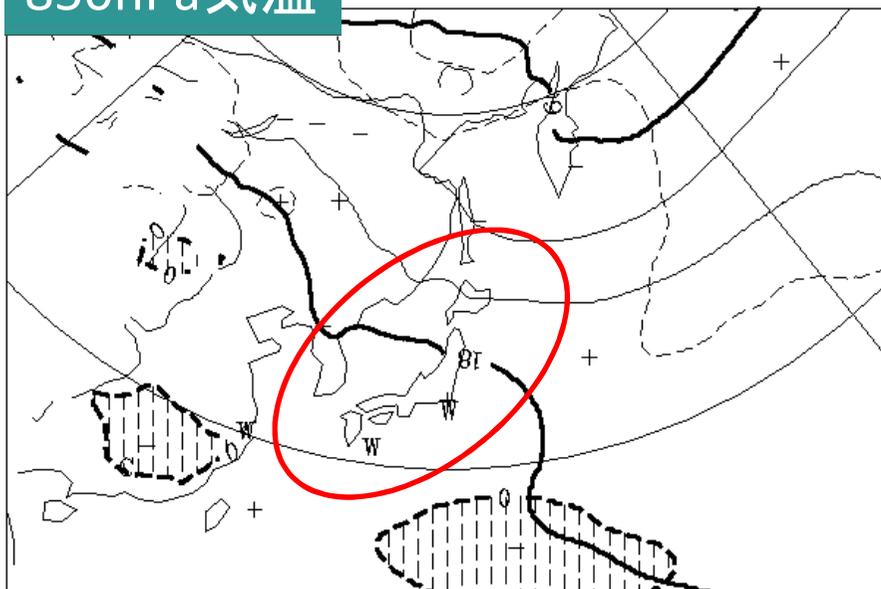
CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.75



北半球中緯度帯の全域で正偏差が続く。

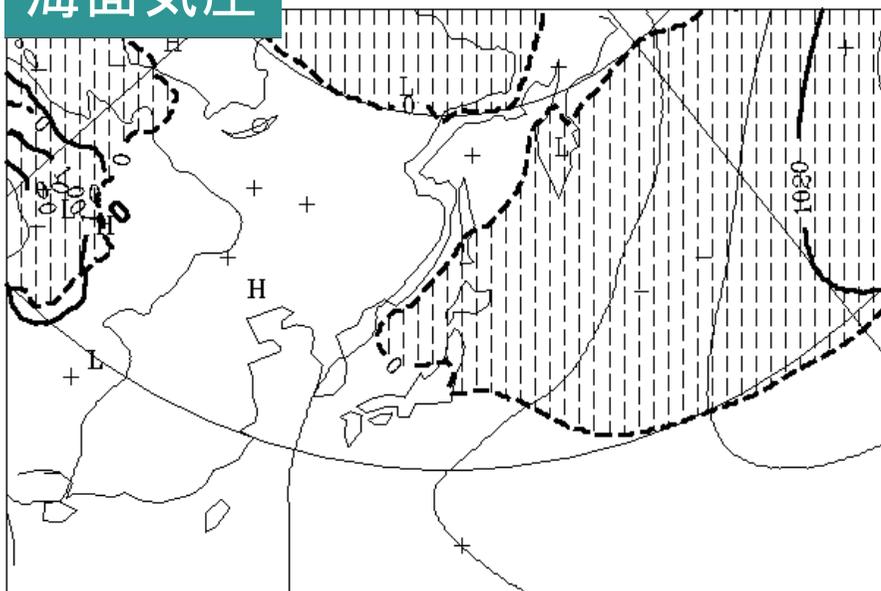
東・西日本と沖縄・奄美は、正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。
北日本付近でスプレッドが大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波束伝播の予測の不確実性を示唆。

850hPa気温



日本付近は正偏差。

海面気圧



日本付近の偏差は小さい。

想定される天候

- 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

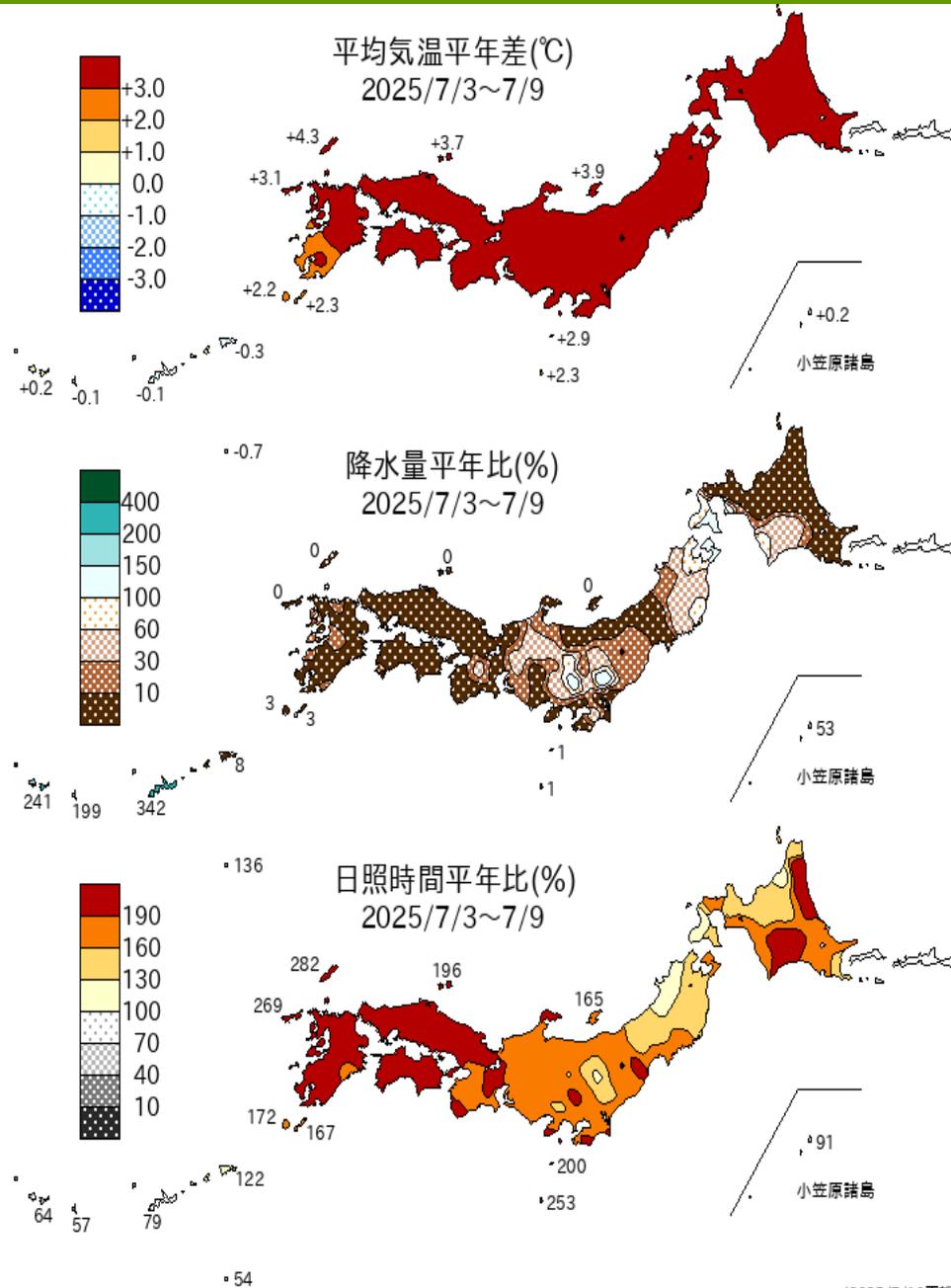
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本は高温、沖縄・奄美はほぼ平年並。

<天候>

全国的に、平年と同様。

最近1週間の天候経過



最近1週間(7月3日~7月9日)は、北・東・西日本と奄美地方では、湿った空気の影響で雨の降った所もありますが、この時期としては太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、西日本日本海側を中心に、降水量は平年を大きく下回り、日照時間は平年を大きく上回りました。沖縄地方では、期間のはじめは太平洋高気圧に覆われて晴れましたが、その後は台風第4号の周辺の湿った空気などの影響を受けて曇りや雨となりました。このため、降水量は平年を大きく上回り、日照時間は平年を下回りました。気温は、北・東・西日本は暖かい空気に覆われたため、平年を大きく上回り、北日本でも猛暑日となった所がありました。